

# 地域における小学校と連携した実習 ～模擬保護者会を通じて～

「小学校での学級運営サポート」と「大学での模擬保護者会」を主軸とした活動です。実習と授業をリンクさせる「往還型学習」を通じて教育現場支援と教育者育成の両立を目指します。



模擬保護者会の授業の様子①

## 活動の概要

目的	小学校の学級運営サポート / 現場での学びを得ることによる教員志望者の学習の補充・深化・統合
連携メンバーおよび役割	吹田市内小学校教員・・・学級運営、学生指導 関西大学文学部教授 石井康博・・・学生指導、活動にあたっての各種調整 関西大学文学部学生・・・ボランティアでの学級運営補助
活動地域	大阪府吹田市内の複数の小学校
活動期間	2007年4月～（継続中）

## 連携の経緯

関西大学文学部に初等教育学専修が設置された初年度から本活動が開始。教育現場での実学的な学習を通じて学生の教育者としての能力を高めることを目指し、初等教育学専修の教員が丸となって教育委員会や小学校等の調整を行った。

## 解決すべき課題

- (1) 小学校におけるサポート
- (2) 大学における教育現場に応じた教育プログラムの創出



模擬保護者会の授業の様子②

## 大学の役割

大学の正課カリキュラム「学校参加とフィールドワークI・II」の一環として、大学1～2回生が主体となって展開する活動である。

本活動において、学生はそれぞれ吹田市内の小学校に赴き、学校で体験したことを報告し、討論し、課題解決の糸口を見つける。そこで週1回のスクールボランティア（学級運営サポート）にあたる。

本活動においては、大学の授業内で模擬保護者会として、学生が教員役と保護者役に分かれたロールプレイを行う。

このような教育現場と授業の両面からの学習活動を行う意図は、教育現場をサポートすることに加え、大学の中と外を「往還」することによって学生の学級運営能力を高めることにある。

学生は実際の教育現場で観察・分析した小学校教員の指導や判断を大学に持ち帰り、それを参考にしながら、模擬保護者会において、時には教員、時には保護者となり学級運営に関する模擬的な受け答えを行う。これは、教員になった際、どのような方針を掲げて児童および保護者と相対していくかのトレーニングに繋がっていく。

このように、教育者を目指す学生の学びの補充・深化・統合のために日々活動を続けている。

## 成果

- (1) 小学校における児童との信頼関係構築
- (2) 小学校からの活動報告書による各種意見

## 今後の展望

- (1) 往還型学習の効果検証

## 研究者の紹介



文学部 教授  
石井 康博  
(いしい やすひろ)

専門は教科教育（算数科教育）。小学校算数科で利用される具体物、子どものインフォーマルな知識、小学校入門期における子どもの数的活動について研究をしている。